

港のたより

Letter of Port

Vol. 152

2026.8.31

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター

COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



落石漁港／写真提供：北海道開発局、落石漁業協同組合（左側3点）

Contents

行事報告 みなとの ニュース

第15回定時総会の開催	2
稚内港北防波堤ドーム竣工90周年記念フェスタを開催しました	3
北海道日本海側と本州太平洋側港湾を結ぶ前例なき定期コンテナ航路の開設	5
みなとオアシスピンズにプレミアピンズが追加されました	7
おたるポートスクエアのオープニングセレモニーを開催	8
港湾業務艇「みずなぎ」を活用した緊急物資輸送訓練の実施 ～「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組～	9
港湾業務艇を活用した離島における物資輸送訓練について	10
The Thirty-sixth International Ocean and Polar Engineering Conference-ISOPE2026 (第36回国際海洋・極地工学会議) 参加報告	11
第69回(令和7年度)北海道開発技術研究発表会表彰論文(港湾・漁港・空港部門)の概要について	13
産学官連携による土木模型製作プロジェクト ～日本港湾協会企画賞受賞～	15
「北海道マリナビジョンコンテスト2025表彰式」について	16
2026年度 寒地土木研究所一般公開 開催報告	19
道愛女子高等学校が全国クルーズ活性化会議総会にて「クルーズホスピタリティ賞」を受賞	20
令和8年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰	21
令和8年度 寒地港湾空港技術研究センター講演会	22
令和8年度 第1回常任委員会の開催について	24
令和8年度 第1回編集小委員会の開催について	24
令和7年度 助成事業報告	25
令和8年度 助成事業応募結果	30
お知らせ	31
センター会員の表彰等について	31
一般社団法人寒地港湾空港技術研究センターの常勤役職員について	31
編集後記	32

行 事 報 告

第 15 回定時総会の開催

令和 8 年 6 月 11 日(木)に一般社団法人寒地港湾空港技術研究センターの第 15 回定時総会を京王プラザホテル札幌において、会員 281 名(本人出席 99 名、議決権の代理行使 122 名、議決権の行使 60 名)のご出席のもと開催しました。会員の皆さまにご協力を賜りましたことにお礼申し上げます。

総会は横田弘会長の挨拶に続き、国土交通省港湾局参事官 大岡秀哉様からご挨拶をいただきました。その後、議案審議及び報告を行い、議案は原案通り承認されました。

○議 案

第 1 号議案 令和 7 年度計算書類の件

第 2 号議案 役員の選任の件

○報 告

報告事項 1 令和 7 年度事業報告の件

報告事項 2 令和 7 年度公益目的支出計画実施報告の件

報告事項 3 令和 8 年度事業計画及び収支予算の件



横田弘 会長挨拶



来賓挨拶
国土交通省港湾局参事官 大岡秀哉様



総会の模様

みなとのニュース

稚内港北防波堤ドーム竣工 90 周年記念フェスタを開催しました

北海道開発局 稚内開発建設部

令和 8 年 7 月 11 日(土)、稚内港北防波堤ドーム及び周辺で「稚内港北防波堤ドーム竣工 90 周年記念フェスタ」を開催しました。

稚内港北防波堤ドームは、旧樺太航路(稚内～大泊[現コルサコフ])の貨客船発着場として、昭和 11 年(1936 年)に竣工し、本年度竣工 90 周年を迎えました。この節目を記念し、例年開催している「WAKKANAI みなとコンサート」と同時開催しました。



午前中は時折強い雨が降るあいにくの天候となりましたが、午後には雨もやみ、多くの来場者で賑わいました。

催しの一つである「北海道 Sea 級グルメ大集合」は、北海道内のみなとオアシスから 8 団体が出店し、地域自慢の海の幸を活かした Sea 級グルメを提供しました。90 周年の節目に合わせて道内各地のみなとオアシスが稚内に集い、それぞれの地域の特色を発信する機会

となりました。来場者は各地の味覚を楽しみながら、北海道の豊かな海産物への理解を深めていました。夕方には完売するブースも見られるなど、盛況となりました。



みなとオアシス おしどまり



みなとオアシス 釧路、るもい



みなとオアシス くつがた



みなとオアシス わっかない



みなとオアシス 苫小牧、もんべつ、室蘭

また、かつて稚内のイベントで親しまれていた「大鍋グルメバトル」を14年ぶりに復刻開催しました。直径約1mの大鍋で調理した「カニの鉄砲汁」と「タラの三平汁」を来場者に食べ比べていただき、どちらが好みか投票していただきました。その結果、カニの鉄砲汁134票、タラの三平汁127票となり、カニの鉄砲汁がわずか7票差で上回りました。



「WAKKANAI みなとコンサート」では、22団体がステージに出演し、歌声や演奏、ダンスなどを披露しました。半アーチ状の構造による独特の音響効果により、出演者の歌声や演奏が会場内に響き渡り、北防波堤ドームならではの特色を生かしたステージとなりました。また、竣工90周年記念フェスタに華を添えるスペシャルゲストによるステージも行われ、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。19時以降にはライトアップも実施され、昼間とは異なる表情を見せるドームを前に、多くの方が音楽に耳を傾けながら、その歴史と魅力に思いを馳せていました。



このほか、昭和時代の北防波堤ドームの様子を紹介するパネル展示や、ドーム補修工事の見学会も実施しました。見学会では、補修工事の概要や工法について写真を用いて説明するとともに、ドローンで撮影した映像をリアルタイムでモニターに映し出し、普段は目にする機会の少ない天蓋部や海側の状況を見学していただきました。



午前中は雨の影響による来場者数の減少が懸念されましたが、延べ3,800名が来場し、盛況のうちに終了しました。今回のフェスタは、竣工90周年という節目にあたり、90年にわたり稚内港を見守り続けてきた北防波堤ドームの歴史や価値、次世代へ継承していく重要性を多くの方々に感じていただく機会となりました。

また、9月4日(金)には、宗谷管内の歴史やドームの変遷、設計者である土谷実氏の功績を称え記念講演会を開催します。皆さまのご参加をお待ちしております。

〈参考〉<https://www.hkd.mlit.go.jp/wk/tikkou/ma0nqq0000000imh.html>



北海道日本海側と本州太平洋側港湾を結ぶ 前例なき定期コンテナ航路の開設

石狩湾新港管理組合 振興部 企画振興グループ 主任 天野 良祐

令和8年3月、これまで北海道の定期コンテナ航路において、前例がなかった北海道日本海側港湾と本州太平洋側港湾を結ぶ新たな定期コンテナ航路が誕生いたしました。この航路の誕生は、新たな航路の開設にとどまらず、北海道の物流効率化に貢献する大きな一歩になると期待しています。

本稿では、本港と仙台塩釜港を結ぶ定期コンテナ航路就航に至るまでの歩みと、本航路に寄せる期待をはじめ、将来への展望についてご紹介いたします。

■航路誘致の取り組み ～そして、航路就航へ

新たな定期コンテナ航路の実現に至った背景としては、これまでの地道な積み重ねがあります。かねてより、当組合には本港背後の立地企業等から国内港湾との定期航路開設を望む声が数多く寄せられておりました。当組合では、こうした声も大きな後押しや支援になっており、これまで継続して、関東・関西で開催される物流関連の展示会に出展し、本港の特性や物流における優位性を広くPRするなど、航路誘致を積み重

ねています。そしてこの積み重ねと、それ以上に様々なニーズへの対応、タイミングにより、一つの物流ネットワークが構築され、航路就航へと繋がりました。

この航路開設は、DP World Japan 株式会社様が株式会社一条工務店様の住宅用建材の物流管理を担う中で、輸送の効率化を目指し、フィリピンから仙台塩釜港を経由して本港へ輸送する物流ルートを検討したことがきっかけとなっています。この新たな物流網は、一条工務店グループが国内物流を、井本商運株式会社が国際フィーダー船の運航を担うことで実現しています。これまでの取り組みから生まれた人の繋がり、そして航路就航、当港において大きな1歩となりました。

■コンテナ物流の新しい景色 ～前例なき航路から膨らむ期待

本航路は現時点で、石狩湾新港(月)―仙台塩釜港(木)―八戸港(金)―石狩湾新港(月)のルートで運航しています。これにより、本港は、従来の外貿定期コン

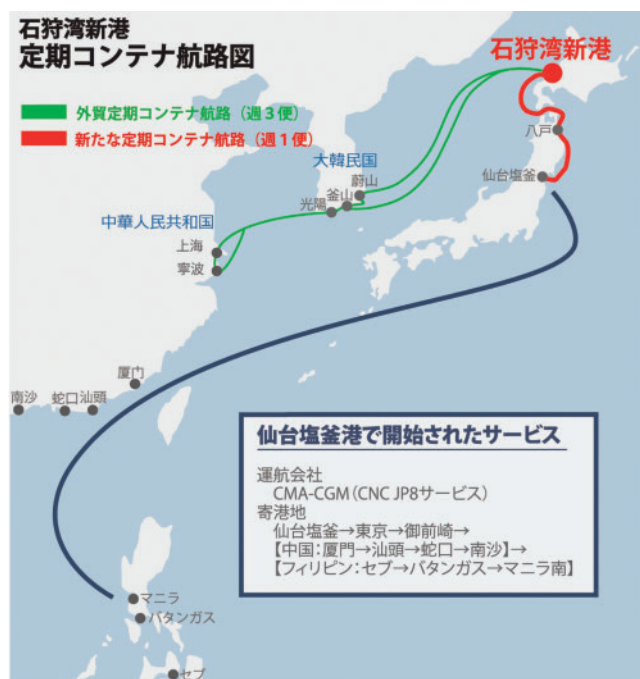


石狩湾新港と仙台塩釜港を結ぶ定期コンテナ船就航の記念式典の様子

テナ航路週3便に加え、国際フィーダー航路が週1便の計週4便に増便されました。

また、本航路は仙台塩釜港に航路を拡大したCMA-CGM社の中国南部・フィリピン航路を活用することにより、首都圏や東南アジア等と北海道との輸移出入が可能となりました。

この国際フィーダー航路の就航は背後企業の声が形となった例であり、今後は物流ルートの選択肢の1つとなるほか、前例なきこのルートは、北海道の物流基盤強化に繋がるとともに、将来の新しい景色として広がっていくものと期待されます。



石狩湾新港定期コンテナ航路図

■持続 ～実績の積み上げ

新たな航路は開設することはもとより、将来にわたって継続的に利用され航路を定着させていくことが重要であります。これまでにない北海道日本海側港湾と本州太平洋側港湾を繋ぐ航路は、未知数なところもありますが、多くの荷主様に利用されなければ持続することは難しいと想定しています。そのうえで、今後大きな鍵を握るのが、「北海道から本州・海外へと輸移出入する貨物」の集荷であり、当組合では、現在、新たな移輸出貨物の掘り起こしに向け、荷主企業等へのPRをはじめとした利用促進に取り組んでいます。当面は、本航路を広く認知していただき、着実に貨物の取扱実績を積み上げ、航路の定着を図ることを目標としています。

また本港は、平成29年に全国第1号で認定を受けた、国の農水産物輸出促進計画における輸出拠点港湾として、北海道の誇る豊かな農水産品を全国・世界へ送り出す玄関口の役割を担っており、連携水揚港湾を含め必要な施設整備を行ったところです。しかしながら施設は整備することが目的では無く利用されることが重要であることから、これまで以上に連携水揚港湾も本港の新たな航路を活用するなど、輸出拠点港湾から道産品を輸出する取り組みが必要と考えています。

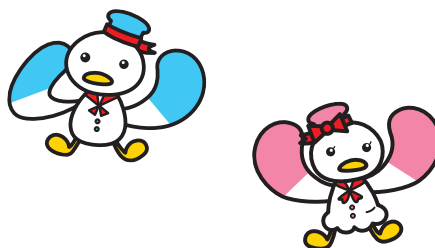
■将来を見据えて

国土交通省で発表されている令和6年度各種統計*によると、国内貨物輸送量(トンキロベース)の5割をトラック輸送が占めており、内航輸送は4割となっています。荷主やフォワーダーからは、トラックドライバーが不足している状況に加え、物流2024年問題により、広い北海道内をトラック輸送することは、輸送時間の長期化を招き、輸送コストの上昇にも波及していると伺っています。本航路の開設は、将来に向けて、これらの問題解決への一助となるものと考えており、モーダルシフトの推進による輸送コストの縮減や、脱炭素化に向けた環境負荷の軽減が期待されています。

当組合としましては、今後も荷主や物流事業者等の皆様とともに強固な物流ネットワークを構築し、北海道経済の成長を支え、北海道民の暮らしを支える一翼となるよう今後も努めて参ります。



さくら入港の様子



*出典：国土交通省統計情報「自動車輸送統計年報」「鉄道輸送統計年報」「内航船舶輸送統計年報」「航空輸送統計年報」
https://www.mlit.go.jp/statistics/details/kamotsu_list.html

みなとオアシスピンズにプレミアピンズが追加されました

北海道みなとオアシス活性化協議会

北海道みなとオアシス活性化協議会では、全国でも初の取組として道内のみなとオアシスが連携し、みなとオアシスの認知度アップと来訪者の満足度向上を目的にオリジナルピンバッチ「みなとオアシスピンズ」を作製し、令和5年6月20日より各みなとオアシスの代表施設等において販売しております。

このたび、各みなとオアシスの更なる認知度アップや来訪者の満足度向上を目的として、特別仕様(ゴールドバージョン)のみなとオアシスピンズ「プレミアピンズ」を作製し、令和8年6月20日より販売を開始しております。

「プレミアピンズ」は、通常のみなとオアシスピンズの販売機(ガチャ)から一定の割合で排出されるもので、販売開始以降、みなとオアシス小樽では修学旅行で来訪する小学生などに人気があり、「プレミアピンズ」を求めて何度も挑戦している子もいたようです。また、各みなとオアシスからも購入者が増えているとの話もあり、「プレミアピンズ」追加による一定の効果はあったものと思います。

今後も更なる認知度アップや来訪者の満足度向上に向けた取り組みを進め、みなとの賑わいや活性化に繋げていきたいと考えています。



各港オアシスで追加されたプレミアピンズ(下段)



みなとオアシス小樽
でのピンズ購入状況



おたるポートスクエアのオープニングセレモニーを開催

小樽市産業港湾部港湾室

令和8年4月に供用を開始した小樽港第3号ふ頭基部緑地の「おたるポートスクエア」では、みなと緑地PPP制度を活用し準備を進めていたコンテナビレッジの完成に合わせて、7月18日にグランドオープニングセレモニーを開催しました。

セレモニーでは、約40人が出席され、迫小樽市長の式辞で始まり、「おたるポートスクエア」の管理・運営する(株)小樽観光振興公社の西條代表取締役社長より挨拶、中村裕之衆議院議員からの来賓祝辞が行われました。生憎の雨によりテープカットは中止となりましたが、セレモニー開催前後にはおたる潮太鼓保存会による打演が披露されオープニングセレモニーに花を添えました。

みなと緑地PPPを活用した収益施設(コンテナビレッジ)では、イタリアン居酒屋の北前ボンジョルニョ(株式会社HGO)、串焼大将港町店(株式会社北海道テ

イスト)、おむすび①遠藤商店(株式会社丸い遠藤商店)がオープンし、各店自慢のメニューを提供いたします。今秋以降には、タリーズコーヒーがオープンを予定しており、地元市民や小樽を訪れる観光客・クルーズ乗船客などによるみなとの賑わいが期待されています。

「おたるポートスクエア」のグランドオープニングイベントは、7月18日～20日の3日間開催され、同時開催として8年ぶりとなる人気の小樽産シャコを味わう「帰ってきたぜシャコ祭り」も開催され、ゆでシャコやシャコ汁、シャコ入り塩焼きそばなど、シャコを求め長蛇の列ができるなど、市民や観光客の賑わいの空間として盛り上がりおりました。

小樽市には大型クルーズ船の寄港やインバウンドなどにより多くの観光客が訪れるため、市街地や観光地域との回遊性をさらに高め、賑わい空間の創出の場へと発展することが期待されています。



式辞 迫小樽市長



挨拶 (株)小樽観光振興公社 西條社長



来賓祝辞 中村衆議院議員



おたるポートスクエア 賑わい状況



収益施設(コンテナビレッジ)

港湾業務艇「みずなぎ」を活用した緊急物資輸送訓練の実施 ～「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組～

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

国土交通省では、みなとの機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークとして、「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取組を推進しています。

小樽開発建設部では、令和8年6月17日(水)に、北海道西部を震源とする大規模地震により国道5号(余市町～共和町区間)が通行不能となり、岩内方面への陸路輸送が困難となった状況を想定し、小樽港湾事務所の港湾業務艇「みずなぎ」を活用した緊急物資輸送訓練を実施しました。

訓練では、小樽港から岩内港まで飲料水やアルファ米等を想定した支援物資を海上輸送しました。7時46分に小樽港を出港し、積丹半島沿岸を航行して11時00分に岩内港へ到着、11時15分には岩内町役場へ物資を届けました。航行中は、神威岬通過時に衛星電話による状況報告を行い、災害時を想定した通信連絡体制の実効性についても確認しました。

訓練後には港湾管理者との合同海上施設点検を実施し、岸壁や防波堤等の港湾施設の状況を確認しました。

また、岩内港で給油ができない事態を想定し、復路で余市港に寄港して代替給油訓練を実施しました。余市港では係留場所や給油作業手順を確認し、約100Lの給油を5分程度で完了できることを確認しました。

当日は濃霧注意報が発令されていたものの、航行中の視界は良好で、波浪も穏やかな状況でした。一方で、視程障害が発生する可能性を考慮した運航計画の必要性や、神威岬周辺では岬を境に海象条件が変わるなど波浪の影響を改めて認識しました。

今回の訓練により、小樽港から岩内港への海上輸送ルートの有効性や通信連絡体制の実効性、さらには余市港を代替給油地として活用できることを確認しました。今後も訓練を継続し、船員の操船経験の蓄積、輸送経路上における避難港の検討、関係機関との連携強化等を進めることで、災害発生時における「命のみなとネットワーク」のさらなる強化を図ってまいります。



(往路)



(復路)

図-1 物資輸送訓練航路図



みずなぎ小樽港出港



訓練物資積載



神威岬沖航行



岩内港到着物資引渡し

港湾業務艇を活用した離島における物資輸送訓練について

北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所

国土交通省は、みなとの機能を最大限活用した災害対応のため物流・人流ネットワーク「命のみなとネットワーク」の形成に向けた取組を進めています

令和8年5月23日(土)に「命のみなとネットワーク」の取組として利尻富士町が主催する「令和8年度利尻富士町防災訓練」に参加し、港湾業務艇(りんどう)を活用した物資輸送訓練を実施しました。

本訓練には、北海道開発局港湾空港部、稚内開発建設部及び利尻富士町役場から計14名が参加し、地震

に伴い発生した土砂崩れにより利尻島内の陸路が寸断し孤立化した想定で、稚内港湾事務所所有の港湾業務艇(りんどう)を使用し稚内港から利尻富士町の鷺泊港へ支援物資を海上輸送し、利尻富士町役場に支援物資を引き渡す訓練を実施しました。

今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向けて継続的に訓練を実施し、災害時にも関係機関が連携して迅速かつ的確な対応ができるよう、防災意識の向上に努めてまいります。



稚内港 支援物資積込



稚内港 出港



鷺泊港 入港



利尻富士町に支援物資を引渡し



利尻富士町のトラックに積込



利尻富士町役場へ運搬

The Thirty-sixth International Ocean and Polar Engineering Conference-ISOPE2026(第36回国際海洋・極地工学会議)参加報告

寒地港湾空港技術研究センター特別調査役 平澤 充成

令和7年度にとりまとめた自主研究の成果について、本年5月31日から6月5日まで、米国フロリダ州オーランドで開催された国際会議「The Thirty-sixth International Ocean and Polar Engineering Conference-ISOPE2026」に参加し発表してきましたので報告します。

●ISOPE とは

本会議はISOPE(The International Society of Offshore and Polar Engineers)の主催による海洋・極地(主に北極)を対象とした世界最大級の会議であり、毎年、世界各地で開催され、本年で第36回目の開催となりました。実は私は英国スコットランド・エディンバラで開催された第1回会議にも参加しており、本会議は縁の深い会議でありました。

初日のオープニングセレモニーでは40を超える国々からの研究者、技術者が今回の会議に参加していることが紹介されました。



素晴らしい環境の ISOPE2026 会場
(Hilton Orlando Lake Buena Vista)



オープニングセレモニーの様子

●セッションの様子

オープニングセレモニーの終了後、流体力学、再生可能エネルギー、海洋技術、パイプライン、掘削等の8部門に分かれて本格的な議論が開始されました。

私は3日目、6月2日16:20開始の流体力学部門「台風」セッションで「On the Correlations

between Climatic Oscillation Indices and Waves Generated by Typhoons and Extratropical Cyclones in the Pacific Coastal Waters of Northern Japan(日本北部太平洋沿岸における気候振動と台風及び低気圧に起因する波浪の関係)」と題して発表しました。その内容は2カ年の自主研究で分かった苫小牧港沖の海域における年最大級の波パワーと北太平洋の東西方向の



セッション会場入口にて
(優しい女性参加者が撮ってくれました)



「台風」セッションでの発表の様子
(この写真も参加者が撮ってくれました)

海水面温度の振動や北極周辺と中緯度地域の気圧振動との相関関係に関することです。台風がテーマだったこともあり、本セッションの参加者は中国をはじめ東アジアの方々が多かったようですが、国際会議ならではの緊張感の中、発表を終えたときは安堵と達成感が押し寄せてきました。

●海外研究者、技術者との交流について

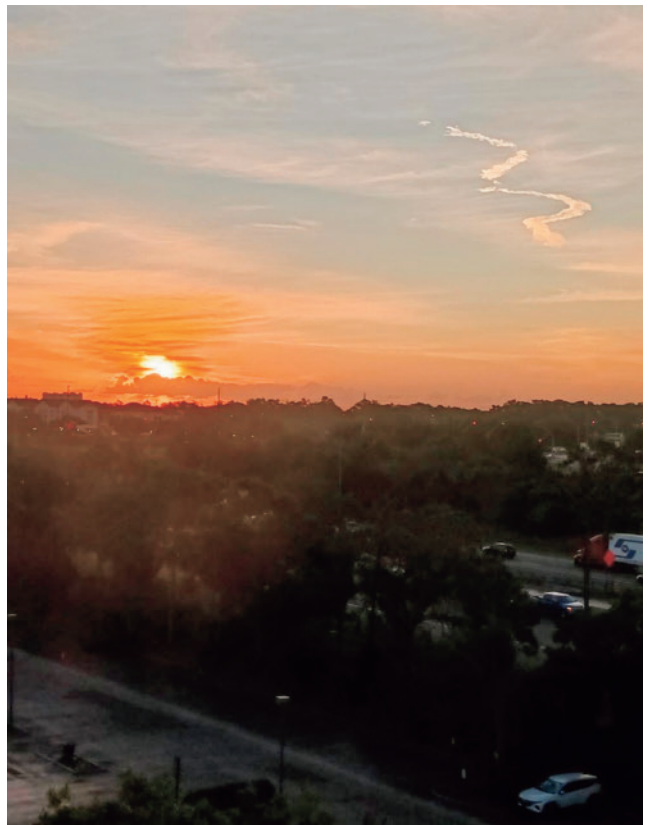
各セッションでの発表の場だけでなく、ウェルカム・レセプションやセッション間の休憩時間に振る舞われる軽食やコーヒー等を飲食しながら意見交換、情報交換が出来るのも国際会議の醍醐味のひとつです。ウェルカム・レセプションでは英国・ニューカッスル大学の先生と会話する機会を得ました。先生はタイ出身でマングローブの根の消波効果を研究されているとのことでした。ただ話題は研究にとどまらず、今回の会場周辺の現地調査(分かりやすくいえば、ディズニーワールド)に及びました。私が「ディズニーワールドには全く興味がないので行かない」と言うと、「折角来たのに、何を馬鹿なこと言っているんだ。絶対に何処かは行った方がいい!!」とほだされ、歩いて10分のディズニースプリングスというところに行ってきました。結局、食事も比較的安く食べられ、お土産も買えることが分かり、会議の合間に2回行ってきました。



発表後、ひとりディズニースプリングスで打ち上げ

●若い研究者、技術者の皆様へ

このように書くと私が英会話に長けているように聞こえるかもしれませんが、決してそうではありません。今回の出張でも現地オーランドに行く途中で飛行機を乗り換えたロサンゼルス空港や帰りの際のオーランド空港で少なからずトラブルがあり、汗をかきかき必死に乗り切れたくらいの語学力です。でも研究テーマに限らず、同じ関心事について会話するとき、(出身国にも依りますが)相手も理解しようとしてくれますし、分かりやすい言葉で伝えようと努力してくれるので、結構、楽しく会話できます。北海道の若い研究者、技術者の皆様も、チャンスがあるときはその機会を逃さず、是非、積極的に国際会議の参加を考えて欲しいと思います。行ってみたら楽しいですよ!!



ホテルからの朝日
(右上の飛行機雲は恐らく“スペース X”のロケット打ち上げの名残)



第 69 回(令和 7 年度)北海道開発技術研究発表会 表彰論文(港湾・漁港・空港部門)の概要について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

第 69 回(令和 7 年度)北海道開発技術研究発表会は、令和 8 年 2 月 17 日から 19 日までの 3 日間にわたり、北海道開発局研修センターでの現地発表と WEB 配信のハイブリッド形式により開催されました。この中で、自由課題 7 カテゴリー 178 件の論文発表が行われ、うち 16 件が港湾・漁港・空港部門の発表となりました。

これらの論文について、研究の創造性、将来の発展性、プレゼンテーションに関して審査が行われ、特に優秀な論文を対象に北海道開発局長賞及び奨励賞、寒地土木研究所長賞及び奨励賞、北海道開発協会長賞及び奨励賞が選考されました。そのうち、港湾・漁港・空港部門からは各賞あわせて 5 件が表彰論文に決定しましたので、研究課題と発表者(所属は発表当時)をご紹介します。

【北海道開発局長賞 決定論文】

研究課題 カテゴリー 安全・安心(安-30)

プレキャスト型枠を用いた矢板式岸壁上部工の施工上の工夫と留意点について

発表者

小樽開発建設部 小樽港湾事務所 遠藤 稜己
小樽開発建設部 小樽港湾事務所 名久井 責成
岩倉建設株式会社 西亦 恵介

概要

石狩湾新港東地区-12m 岸壁は貨物需要の増加に伴い利用者から早期供用を求められているが、日本海特有の冬季における厳しい海象条件のため、従来工法では要請に応えることが困難であった。このため、矢板上部工に北海道で初めてプレキャスト型枠工法を採用し、冬季施工の安全性向上、現場作業の効率化・省人化、工期の短縮を実現した。本稿は、本工法の採用経緯、当該現場における施工上の工夫と留意点を取りまとめたものである。

【寒地土木研究所長賞 決定論文】

研究課題 カテゴリー ゼロカーボン(ゼ-04)

ROV と物体検出 AI モデル YOLO を用いた藻場の連続被度算定手法

発表者

(国研)寒地土木研究所水産土木チーム 菅原 吉浩

概要

潜水土が不足する中、高度で効率的な藻場モニタリング手法の構築を目的とした、ROV の動画と物体検出 AI を組み合わせた藻場面積の割合(被度)の自動算定手法を検討した。この結果、限られた AI 学習データを増幅することで、AI による藻場検出精度が大幅に向上するとともに、従来の潜水土では点在した被度情報の取得のみに限られていたが、AI により測線全体の連続した被度分布を評価できることを明らかにした。

【北海道開発協会長賞 決定論文】

研究課題 カテゴリー 安全・安心(安-32)

消波ブロック被覆堤における消波工の設置形状の工夫による波高伝達率の低減効果について

発表者

港湾空港部 港湾建設課 佐藤 功坪
港湾空港部 港湾建設課 川口 拓也
日本データサービス株式会社 平郡 聖土

概要

気候変動に伴う将来の潮位・波高の増大により、防波堤の機能低下が懸念されている。そのため、既設消波ブロック被覆堤では将来的に堤体・消波ブロックの嵩上げが必要となる。一方、嵩上げを行わず消波工の拡幅のみで防波堤の要求性能を満たす改良工法を適用

できれば改良コストの削減が期待される。本稿は、数値解析・水理模型実験を実施し、消波工拡幅による波高伝達率との関係について整理し、設計実務に使用可能な本改良工法の一般式の提案を行った。

【北海道開発局長奨励賞 決定論文】

研究課題 カテゴリー 地域づくり(地-01)

水産物の更なる付加価値向上に向けた取組とその効果の検証について

発表者

農業水産部 水産課	水島 良
農業水産部 水産課	木口 輝

概要

近年、スルメイカやサケといった回遊性資源の減少により、北海道内の漁獲量は減少傾向であり、各地域においてブランド化による漁獲物の付加価値向上に取り組んでいる。本論文では、漁獲物の更なる付加価値向上につながる鮮度保持手法の検討内容や販路拡大に向けた実証実験の結果とその効果について報告するものである。

【北海道開発協会長奨励賞 決定論文】

研究課題 カテゴリー ゼロカーボン(ゼ-03)

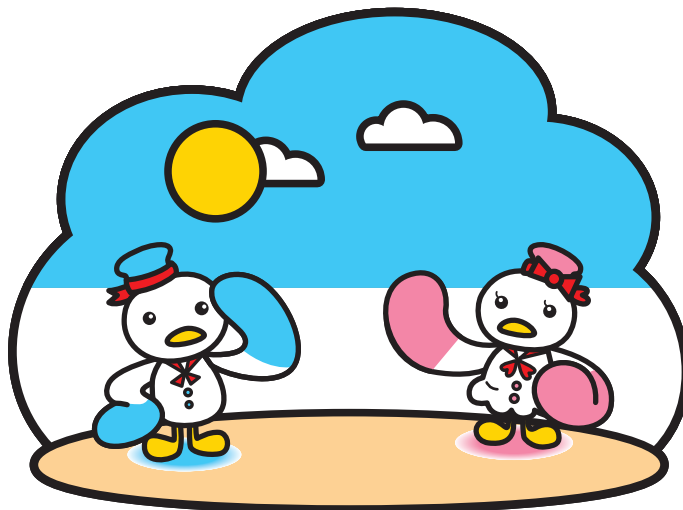
グリーンレーザーを用いた藻場モニタリング手法の開発

発表者

(国研)寒地土木研究所水産土木チーム 田村 友行
(国研)寒地土木研究所水産土木チーム 菅原 吉浩
網走開発建設部 紋別港湾事務所 秋田谷 肇

概要

ブルーカーボン算定の精度向上には広域の藻場現存量の計測が不可欠である。本研究では、UAV グリーンレーザー測量を用いて北海道のコンブ藻場の三次元構造を計測する手法を検討した。その結果、本手法で算出した海藻高は潜水調査結果と概ね一致した。さらに、従来の潜水調査では点在した情報しか得られなかったのに対し、本手法では測線外を含む広範囲の海藻高を面的に把握することが可能となり、広域バイオマス推定への有効性が示された。



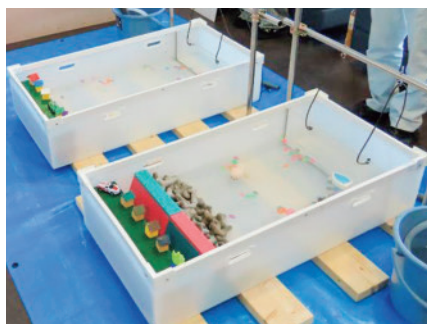
産学官連携による土木模型製作プロジェクト ～日本港湾協会企画賞受賞～

北海道開発局 函館開発建設部 函館港湾事務所

- 函館港湾事務所、函館工業高等専門学校、函館港湾事務所工事安全連絡協議会が連携して取り組む「産学官連携による土木模型製作プロジェクト」が日本港湾協会企画賞を受賞し、令和8年5月27日に横須賀市で開催された日本港湾協会定時総会の場で表彰されました。
- 本プロジェクトは令和7年度から始まったもので、港湾施設等の模型製作を通じて、学生には行政や建設業の仕事を疑似体験できる教育プログラムを提供するとともに、若手技術者には学生との協働を通じた技術力の向上を図る取り組みです。
- 模型の製作は、社会人チーム、学生チームに分かれて行いますが、各チームにおいてテーマ、コンセプトを議論し、製作する模型を決定、模型の概略設計と製作費用の算定を行った後、予算獲得ヒアリングを経て必要な予算を確保し、材料を調達して製作を行う仕組みとなっています。
- 製作した模型は、「はこだてカルチャーナイト 2025」に出展され、土木模型の説明や体験を通じて、子供たちに津波災害時における港湾インフラの重要性や港湾工事の仕組み・技術をわかりやすく伝えたほか、「はこだて防災マルシェ 2025」、「Sea 級グルメ全国大会 in あおもり」などにも出展し、多くの来場者に港湾土木の魅力を発信しました。
- 令和8年度からは、本プロジェクトに函館工業高校が加わるほか、官は函館港湾事務所から函館開発建設部へ、民は工事安全連絡協議会から(一社)函館建設業協会に移行するなど、より発展、広がりのある取り組みになりつつあります。



表彰式の様子



高専チーム製作模型
(津波に対する防波堤効果を検証)



社会人チーム製作模型
(消波ブロック据付体験)



表彰状



はこだてカルチャーナイトへの出展

「北海道マリンビジョンコンテスト 2025 表彰式」について



北海道開発局 農業水産部 水産課

令和8年7月7日に北海道マリンビジョン促進期成会(以下、期成会という)の総会が札幌市内で開催され、併せて「北海道マリンビジョンコンテスト2025」(以下、コンテスト)の表彰式が行われました。

コンテストは、各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献した優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会と北海道開発局との共催により開催しています。

今回、第16回目となるコンテストでは、最優良賞は根室地域(落石地区)マリンビジョン協議会、優良賞は登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン協議会及びウトロ地域マリンビジョン協議会、奨励賞は三石地域マリンビジョン協議会及び根室地域(歯舞地区)マリンビジョン協議会が受賞し、それぞれ関係者に表彰状が授与されました。

受賞した取組の概要は以下のとおりです。

【最優良賞】根室地域(落石地区)

落石地区は、多種多様な水産物が漁獲される地域ですが、近年は海洋環境の変化や資源量の減少等による漁業者所得の減少が課題となっていました。

このため、根室地域(落石地区)マリンビジョン協議会では、地区内に水産加工処理施設を新設し、消費者ニーズを意識した水産物の高付加価値化に向けた取組を積極的に行っています。

また、令和7年度は、航空会社、大手総合物流企業、大手外食チェーンと連携し、根室産サンマを水揚げしたその日に首都圏の飲食店へ提供する「空飛ぶサンマプロジェクト」を実施しました。漁獲された直後の根室産のサンマを花咲港落石市場から航空輸送で直送することで、従来は困難とされていた「高鮮度の根室産サンマ」を首都圏の消費者へ届けることが実現しました。

これらの取組は、地域の知名度向上と水産物の販売拡大を継続的に推進する好事例であり、産地自らが都市部へ売り込みを行い、継続的な取引に結び付けている点が高く評価され、最優良賞に選定されました。



「空飛ぶサンマプロジェクト」で提供されたサンマ



最優良賞の表彰状授与の様子

【優良賞】登別・白老(虎杖浜)地域

登別・白老(虎杖浜)地域では、水産物のPRや地産地消の拡大、さらには都市と漁村の交流促進を目的として、水産物の販売を行う朝市・夕市を年に5~8回程度開催しています。令和7年度は、登別漁港及び白老港で計5回開催し、地元水産物の魅力発信に取り組みました。

本取組は、平成18年から継続的に実施されており、各市町のホームページや新聞折り込みによる周知に加え、インスタグラムを活用した情報発信や関連イベントの拡充などにより、毎回多くの来場者で賑わいを見せています。

令和7年度は、プレゼントキャンペーン付きの来場者カードの配布や、順番待ちの整列方法の見直しなど

を行い、来場者の満足度の向上にも積極的に取り組んでいます。

これらの取組は、長年にわたり継続して実施されている点や、地域の実態に即したイベント形式による集客が行われている点が評価され、優良賞に選定されました。



朝市・夕市の開催の様子



@ASAICHI.YUICHI_JF.IBURICHUOU



Instagramの活用やキャンペーンの実施

【優良賞】ウトロ地域

ウトロ地域では、サケ・カラフトマス資源の長期的な底上げと安定化を図り、自然産卵環境の保全と拡大による遺伝的健全性の確保をするため、サケ・マス自然産卵調査、可搬魚道試験、魚道清掃などを役場、漁協職員、香川高等専門学校の学生等と連携して実施しています。

令和6年度からは、釣人に釣竿3本、釣る尾数3尾を促す「斜里海浜サケ・マス釣りルール」を本格運用し、美しい海浜を保護し、サケ・マス資源の持続可能な利用に取り組んでいます。近隣市町と合同でルールの制度化や海岸清掃を行うとともに、釣人へルール順守の啓発活動を行い、海浜環境の改善や釣人の満足度向上につながっています。

これらの取組により自然産卵環境を保全する意義は大きく、生産力向上につながる活動として評価され、優良賞に選定されました。



斜里海浜サケ・マス釣りルール



釣りルールの啓発と清掃活動

【奨励賞】三石地域

三石地域では、資源量の減少に伴う漁業者所得の低下や高齢化の進行により、担い手不足や地場水産物の消費拡大が大きな課題となっています。

このため、三石地域マリンビジョン協議会では、漁業後継者の確保や担い手育成のほか、まちの水産業の現状や地場産食材の魅力を伝える大切な機会として出

前授業を行ってきました。これまで継続的に実施してきた出前授業を発展させ、宿泊を伴う大学生向け出前講座を実施することで、漁業への理解促進と関係人口の拡大に取り組んでいます。

また、地元の静内農業高校と連携し、低・未利用魚を活用したレシピを開発し、来年度以降、新ひだか町内の宿泊施設や飲食店等において「静農ブランド&漁港めし」として提供する予定です。

出前授業は、天候不良時の対応など課題もあるものの、長期的な交流人口の増加が期待される取組であり、さらに、レシピ料理の開発・提供は、地場水産物の付加価値向上につながる取組として評価され、奨励賞に選定されました。



&



静農ブランド&漁港めし
「からっと 魚(ギョー)ーテン揚げ」

【奨励賞】根室地域(歯舞地区)

根室地域(歯舞地区)では、衛生管理型市場・防災施設・海業支援施設の機能を併せ持つ歯舞漁業協同組合複合施設を活用し、一般観光客、教育旅行の学生、北方領土青少年視察団、都府県議会等の視察団体を受け入れています。来訪者に対しては、施設案内に加え、北方領土学習や貝殻昆布の歴史などコンブ漁業に関する説明を行っています。

一方、根室市内では宿泊施設が不足しており、来訪者の多くが通過型観光にとどまっていることから、宿泊機能の確保による滞在型観光への転換が課題となっています。

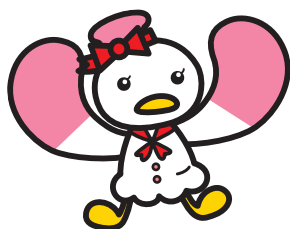
このため、根室地域(歯舞地区)マリナビジョン協議会では、滞在型観光の推進に向け、先進事例の視察や地域に適した導入手法の検討を進めています。

本検討は令和7年度から開始され、宿泊規模や運営体制の検討、大学生を対象とした試験的・段階的な展開などを実施しています。

こうした課題は多くの地域が抱えていることから、本取組は汎用性の高い好事例として評価され、奨励賞に選定されました。



宿泊施設の先進事例
(魚津漁業協同組合経営の「渚泊魚津丸」)



2026 年度 寒地土木研究所一般公開 開催報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム 水産土木チーム

寒地土木研究所では、研究成果や研究活動の内容をわかりやすく紹介し、土木技術への理解を深めていただくため、毎年施設の一般公開を実施しています。例年、試験研究機関や企業、行政関係者をはじめ、一般の方々やご家族連れ、幼稚園や小学校の団体など、幅広い層の皆様にご来場いただいています。

今年は「～ひらけ！北の技術、未来のカタチ～」をテーマに、7月3日(金)・4日(土)の2日間に亘り一般公開を開催しました。会場では15の研究チームが工夫を凝らした展示や体験コーナーを設け、来場者の皆様に研究成果や最新の技術を紹介し、2日間で延べ1,331名の皆様にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

当日は、子どもから大人まで多くの方が各コーナーで実験や体験に参加し、研究技術の面白さや研究活動への理解を深めていました。

寒冷沿岸域チームでは、「いろんな波を知ろう！強い波に負けない港づくり」をテーマに、大型平面水槽内での造波実験を行い、港と防波堤の役割を体験していただきました。特に、津波は実験スケールの高さでも人は立っていられずに流されてしまうことから、津波注意報・警報が発令されたらすぐに避難することの重要性を体験していただきました。また、氷の構造物への衝突の様子を再現した実験や過去40年間のオホー

ツク海における波浪の変化を再現した数値シミュレーションの研究紹介を行い、防波堤で使われる消波ブロックの展示コーナーを設けました。

さらに、オホーツク海・極域などの寒冷海洋域での現場観測の研究風景や、現在地球規模で進行する地球温暖化や気候変動といった研究課題について、写真や全体像も交えながら解説するパネル展示も行いました。

また、水産土木チームでは、「スイサンドボクってなに？」をテーマに、水産土木の役割や藻場・漁場づくりなどの取組をわかりやすく紹介するコーナーを設け、藻場の役割についてのパネル展示、種苗ナマコの好適な生息環境として民間と共同開発した「ナマコのゆりかご」展示のほか、AIにより水中動画から海藻を自動判別している映像や、海の中で暮らす生物の展示、ハタハタの産卵場としての役割を持つ人工海藻の展示を行いました。

来場者の方々は展示物を興味深くご覧になっており、実際に見て、触れて、学ぶことで、普段は接する機会の少ない沿岸・水産分野の技術や研究への理解を深めていました。

今年も多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございました。来年も皆様のご来場をお待ちしております。また、技術相談についても随時受け付けております。どうぞお気軽にご相談下さい。

(文責：水産土木チーム 田村)



大型平面水槽での造波実験(寒冷沿岸域チーム)



地元小学生へ人工海藻の説明(水産土木チーム)



パネル・消波ブロック等の展示状況(寒冷沿岸域チーム)



地元小学生へナマコのゆりかごの説明(水産土木チーム)

遺愛女子高等学校が全国クルーズ活性化会議総会にて 「クルーズホスピタリティ賞」を受賞

北海道開発局 函館開発建設部

7月16日(木)に山口県下関市で開催された全国クルーズ活性化会議の総会において学校法人遺愛学院遺愛女子高等学校が「クルーズホスピタリティ賞」を受賞しました。

「クルーズホスピタリティ表彰」は、新たな取り組みとして今年度創設され、クルーズ船の寄港・出港時における歓迎などの取り組みが地域社会の活性化や優れたホスピタリティとして評価された団体を対象に表彰するものであり、一般社団法人日本外航客船協会(JOPA)、日本国際クルーズ協議会(JICC)からそれぞれ推薦を得た茨城県大洗高等学校(マーチングバンド部)、学校法人遺愛学院遺愛女子高等学校の2校が受賞しました。

遺愛女子高等学校は、2007年から長年に渡りクルーズ船受入に際し乗船客への温かいお出迎えや外国語による地域案内等のホスピタリティあふれるボランティア活動を通じて寄港地の魅力向上とクルーズ振興に多大な貢献され、その活動は若い世代による地域交流の模範でありクルーズを通じた地域活性化にも寄与するものとして評価されました。

表彰式には、井本晴雄校長と高校3年生英語科の寺澤詞野さんが出席され、寺澤さんはクルーズ船のお客様との交流やおもてなし活動を通して学んだこと、地域とのつながり、そして英語を実践的に活用する喜びについてスピーチを行いました。



表彰式の様子



表彰された遺愛女子高等学校の井本校長と生徒代表の寺澤さん



令和 8 年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰

北海道開発局 農業水産部 水産課

令和 8 年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰の受賞者が、令和 8 年 5 月 7 日に決定し水産庁から公表されました。

この表彰は、漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者に対して与えられるものです。

受賞企業は全国の漁港漁場整備に携わった中から、農林水産大臣表彰に 3 社、水産庁長官表彰に 10 社選

定されました。このうち、道内の企業としては、株式会社西村組(西村幸浩 代表取締役)が農林水産大臣表彰を、勇建設株式会社(坂昭弘 代表取締役社長)、安田建設株式会社(安田最次 取締役社長)が水産庁長官賞を受賞し、令和 8 年 5 月 14 日には、農林水産省(東京)において表彰式が行われました。この度の表彰、心よりお祝い申し上げますとともに、さらなるご発展をお祈り申し上げます。



受賞者一同

(前列左から 1 人目が株式会社西村組、後列左から 1 人目が勇建設株式会社、2 人目が安田建設株式会社)



先日、車を運転しながらとあるラジオ番組を聴いていると、釣りに関するコーナーがあり、全道各地の釣り情報に関する内容が流れてきました。「〇〇港の××防波堤先端で、□□が入れ食い状態です！」とのこと。私自身、子供のころは良く海・川問わず釣りを楽しんでいたので、「へえー、そうなんだー。」程度で聞いていたのですが、数日後、たまたま見た SNS で、ラジオ番組で入れ食い状態と情報が流れていた〇〇港の港湾管理者と思われる方が、立入禁止区域における釣り人の方の侵入に対する対応に苦慮している旨の投稿を見ました。××防波堤は立入禁止区域に含まれる防波堤で、港湾管理者として、様々な立入禁止措置や、現地パトロールを強化されているものの、未だに釣り人の侵入がなくなることが無く、その対応には相当なご苦労が

あるものと思います。釣りの経験者として、魚を求めて釣り場を転々とし、より釣れやすそうな場所を探すという気持ちは良くわかります。ですが、立入禁止措置が執られている区域は、入ると危険であることから立入禁止となっているわけで、一歩間違えば命の危険にかかわる重大な事態に陥る場合がある場所ということになります。毎年のように、釣り人の立入禁止区域への侵入によって海中転落事故が発生したという報道が聞こえてきます。一方で、苫小牧港では、海釣り施設として防波堤の一部が開放されていますが、安全に釣りが楽しめるよう厳格な閉鎖基準や天候の急変時等の避難誘導体制が設けられて運営されてます。

苫小牧港のような施設を全道各地に設置するのは非常に難しいと思いますが、なんとか釣り人の方も安全に釣りを楽しめつつ、かつ港湾管理者の方が立入禁止措置に関する対応に苦慮しない良策が見つからないものかと思う今日この頃です。

(R.M)

表紙の写真：①コンブの天日乾燥 ②コンブの荷役状況 ③タコの荷役状況

落石漁港は、北海道根室半島の基部に位置しており、落石地区・浜松地区・昆布盛地区の3地区から構成される第3種漁港です。

本漁港は、サケ定置網、採藻、タコかご等の沿岸漁業が盛んで、浜松地区や昆布盛地区で水揚げされ

た漁獲物は落石地区に集約され、道内外へ出荷される流通拠点として機能しています。また、周辺海域で操業する外来漁船の陸揚基地としても重要な役割を担っています。

落石地区は、自然豊かな海岸線に囲まれ、漁港は住民の生活と経済を支える中心的存在です。漁業活動に加え、周辺には落石岬、ユルリ島・モユルリ島など自然環境に恵まれており、地域の魅力を形づくる重要な拠点となっています。



港のたより 【Vol.152】 2026年8月31日

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル5階
TEL(011)747-1688 FAX(011)747-0146 <https://www.kanchi.or.jp>

